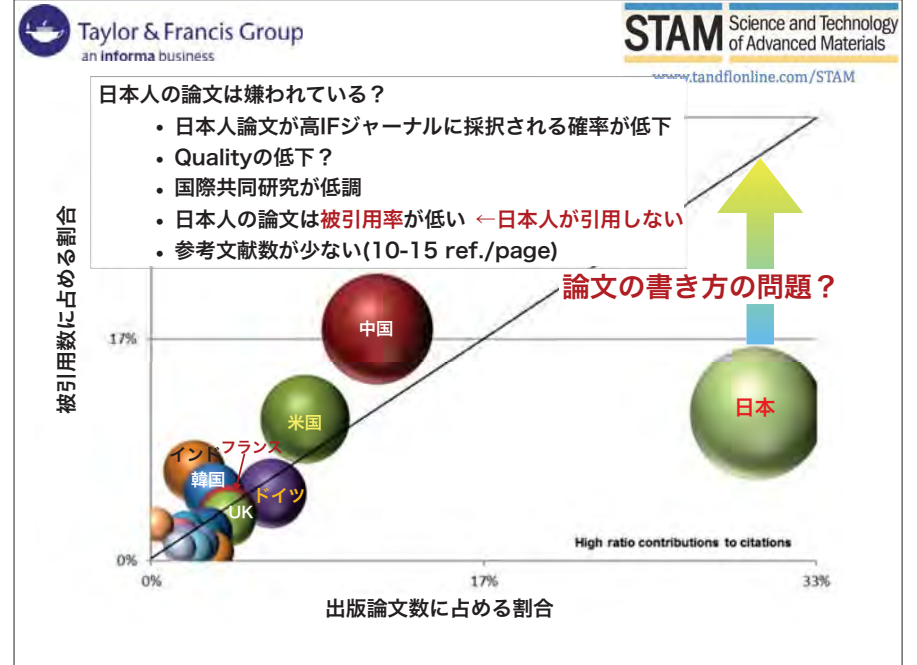
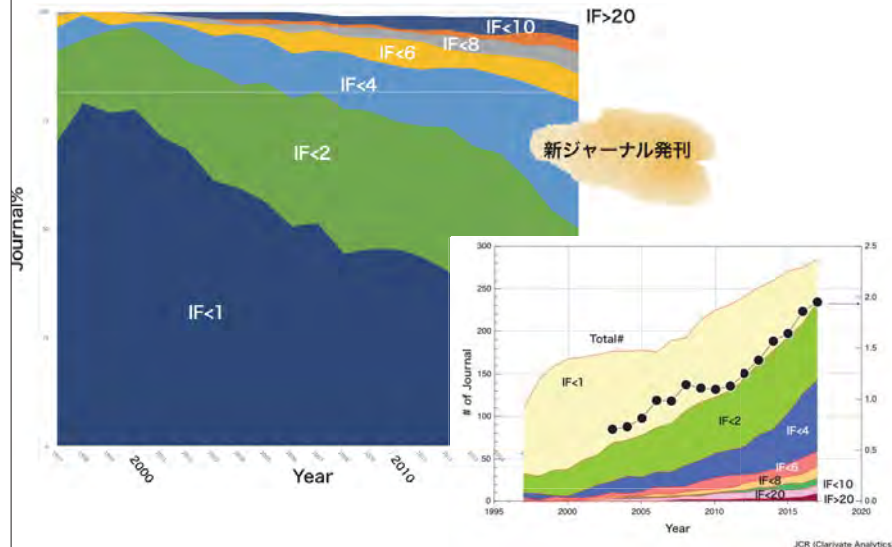


Journal Issue Materials Science: Multidisciplinary

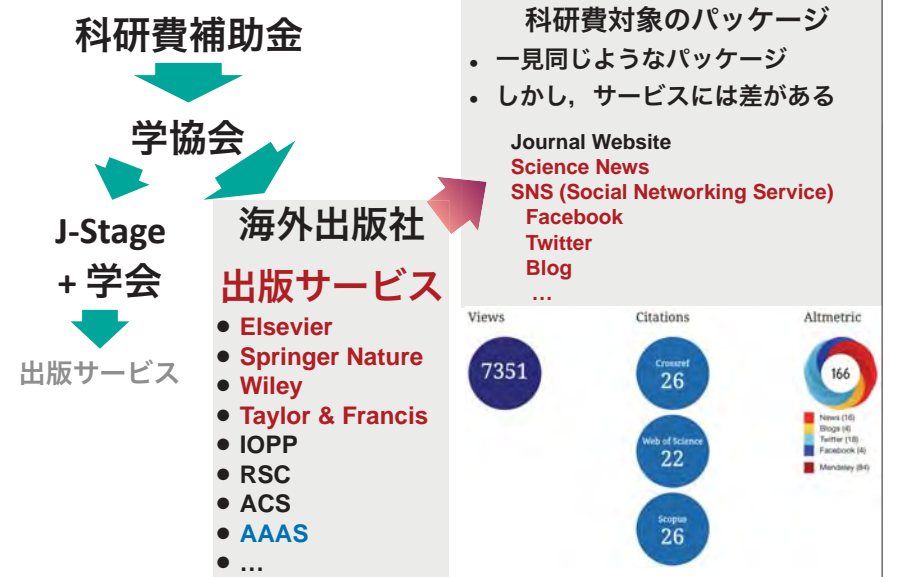


英文ジャーナルの現実

- 「投稿された論文は1年以内にどこかのジャーナルで出版される」
- 「1年以内に引用されないとずっと引用されない」
 - 自己引用も可 (10%強) → $\Delta IF \approx 0.5$
- 宣伝が重要
 - 「論文の最も良い宣伝はその論文を自分で引用すること」
 - 論文を出版してから発表 (宣伝)
 - ジャーナルによる宣伝: Editor's Choice, ...
 - 自分でも宣伝 (メール, SNS, News, ...)
 - SNSの積極利用 → 高Altmetrics
- 編集の努力
 - 編集方針: トピックスの選択
 - 引用文献数の増加 (10-15/頁)
 - 迅速Review (2週間以内に返信)
 - ゼロサイテーション論文の撲滅
 - 学会誌: 学会の階層と分離
- Open Access (CC-BY) → Open Science/Open Dataの進展



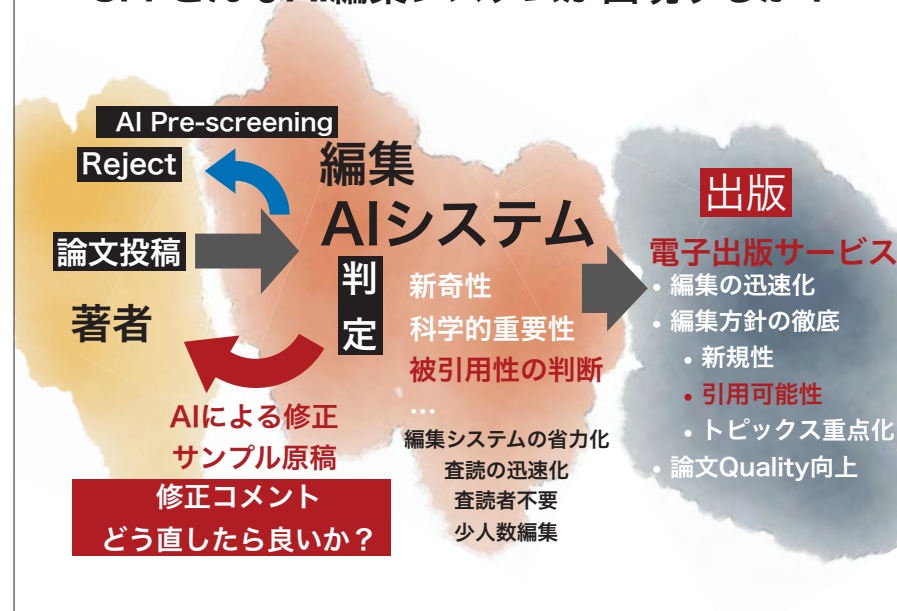
成果公開促進費 (国際情報発信強化)



10年後のJournal発行

- オープンデータ・オープンサイエンス普及による研究の分業化
- AI導入による機械評価・自動添削による編集
 - 迅速化・無機質化←ハゲタカジャーナルの跋扈?
 - 大量のデータ・論文の氾濫→Abstract Serviceの普及
- AI翻訳による「言葉の壁」消失
 - 日本語で投稿→日本語出版/AI翻訳多言語出版
→速報性の担保
 - 日本語解説・総説記事 → 教育リソース
 - 産業技術者が読める日本語論文+速報論文発行の両立
- 日本語論文・書籍の被引用情報の普及
信頼できるインデックスの提供

SF: どんなAI編集システムが出現するか?



まとめ (1) : 考えられるシナリオ (個人的見解)

- 学協会連合・連携体の形成 :
 - サイズメリット・Readership&Authorship)のMass効果
- 合同出版による学協会ジャーナル群の再構成 :
 - 英文Flagship ジャーナル創出&カスケード出版
 - 新アイデア(言語の壁がなくなる)による和文誌
 - 英文誌と異なるスコープ←和文誌の特徴発揮 (速報性+易読解性)
- 編集・出版サービスの育成と充実 : 現場技術者も読める論文・解説
 - J-STAGE周辺出版サービスへの充実
 - 編集エキスパートの育成
 - 和文論文引用インデックスの普及・標準化
 - AIによる自動編集ツールの開発
- Open Accessの推進 :
 - Funding Agencyのルール改正 (JUSTICE, Plan-S?), 費用負担
- “評価”の目利き(人材)育成 :

まとめ (2) : 第三部学術情報分科会における検討方針

- 過去の報告+提言の検証
 - どれだけ実現できたか? 何が問題か?
 - 10 (~30) 年の時間スケールで将来に向けた学会のあるべき姿を考える
 - 会員減少・高齢化問題 (シニア会員の活用だけでなく女性・外国人会員)
 - 連合体・連携体の推進 → これからの方向性?
 - 講演大会・ワークショップ・講習会等の共同開催
 - 国際化・国際集会の共同開催
 - ジャーナル問題: 言語の壁を超える?
 - フラッグシップジャーナル+電子出版サービス (科研費補助?)
 - 英文誌・和文誌の共同出版とカスケード出版
 - (言語を壁を超えた) 新しい和文誌の方向性
 - 和文誌, 書籍のCitatin Indexの普及と有効利用
 - 電子ジャーナル購読問題
- 国際競争力**
- | | | |
|--|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> • 国際競争力強化 • 留学生問題 • 国際研究集会の競争力強化 | <p>Singapore</p> <p>登録参加者数: 2500</p> <p>講演: 29 Parallel Sessions</p> <p>8 Plenary Lecturers</p> | <p>Fukuoka</p> <p>登録参加者数: ≈1500</p> <p>講演: 19 Parallel Sessions</p> <p>6 Plenary Lecturers</p> |
|--|---|--|
- IUMRS-ICA: シンガポール>日本